キャラクター名
ヴィレット＝ハイ＝オーテ

プレイヤー名

シンドローム	ブラム＝ストーカー エンジェルハィロゥ	ワークス	暗殺者	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	17	性別	女
覚醒	生誕	衝動	殺戮	初期侵食率	35 %
出自	姉妹	経験	殺生	邂逅	ビジネス

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1	0	0			1
感覚	5	1	0			6
精神	2	0	0			2
社会	0	0	1			1

HP	24
行動値	14
(非装備時)	14
戦闘移動	19
全力移動	38

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		ＲＣ			交渉		
回避			知覚			意志	3		調達		
運転：二輪	2		芸術：			知識：	2		情報：裏社会	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
赫き猟銃		0				使用時HP-３点 Lv×3+4 射程20m
狩猟開始		0		25		赫き猟銃＋破壊の血＋陽炎の衣　HP-2
不可視の弾丸	射撃	7r+1		25		見えざる死神＋ガラスの剣＋コンセントレイト　HP-3　敵リアクションダイス-4
再生		0				リミテッドイモータル　Lv×2回復

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
闇使い	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
リミテッドイモータル	2	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：Ｌｖ×２のＨＰ回復								
赫き猟銃	3	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：使用時HP-３点 Lv×3+4 射程20ｍ　射撃武器								
破壊の血	4	5	マイナー	至近	自身	自動	ﾘﾐｯﾄ	
効果：赫き猟銃を＋Ｌｖ×３　ＨＰ２点消費								
陽炎の衣	2	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：メイン隠密状態　シーンLv回								
コンセントレイト	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：クリ値ーLv（下限７）								
見えざる死神	3	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：隠密　判定D＋１　攻撃＋Lv×3								
ガラスの剣	2	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：隠密　相手のRAD-Lv＋２個								
闇の指先	1	7	オート	視界	単体	自動	Dロイス	
効果：対象の判定　C値＋１　ラウンド１回　シナリオLv回								
ブラッドリーディング	★	-	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果：体液から個人情報を読み取る								
ウサギの耳	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：耳めっちゃ良い								
効果：								
効果：								
効果：								

彼女は生まれながらに力を持っていた。
自覚したのは中学生ほどの時だっただろうか、明らかに他人とは違う自分の力に疎外感を覚えるようになった。
そんなある日、UGNの人間と出会いオーヴァードの存在を知る。

UGNという組織そのものに入る気はなかったが、世の平和のために力を貸してほしいと熱弁された。
その話の中で、具体的なオーヴァードの力や、自身がオーヴァードの中でも相当な才能を秘めていることを教えられた。
しかし、彼女は自分の中に眠る衝動と照らし合わせ、その才能が『殺しの才能』であることをハッキリと理解した。

中学校を卒業する頃、それらしい理由をつけて遠い高校を選び一人暮らしすることを望んだ。
両親も本当は力のことを知っていて恐れていたのか、彼女の話を信じて将来を想ってくれたのか、さだかではないが揉めることなく一人暮らしすることが決まった。

充分な仕送りがあり、不自由な生活を送れるはずの彼女だったが日に日に増していく殺戮衝動に苛まれていくことになる。
鬱屈した日々を過ごしていると、UGNから依頼が届いた。
UGNでなくとも協力関係になれるイリーガルという存在があることを知らせる旨と、あるジャームへの対処に協力してほしいという内容だった。

日に日に増していく衝動に精神が摩耗していて、おそらく正常な判断ができていなかった。
「力を振るう機会があればこの衝動も薄れるのでは？」
依頼を受けてしまった。

当日、訓練を受けていない彼女はレネゲイドビーイングの雑兵と戦うことになっていたが、当然ながら本気の戦闘についていけていなかった。
なんとか掃討し、ジャームの前へとたどり着いた。